

## 第 720 回 化学・物質工学セミナー

下記の通り化学・物質工学セミナーを開催いたします。万障お繰り合わせの上、ご参加ください。このセミナーは実地開催（対面）で実施しますので、ホールの定員の 2/3 に達した時点で、恐縮ですが入場を制限させていただきます。なお、ご講演はビデオ撮影する予定です。入場できなかった希望者は、動画ファイルのご希望をご連絡ください。

### 「自然知能」を考える

東京工業大学 教授

物質理工学院・応用化学系

地球生命研究所・化学進化ユニット（兼務）

原 正彦 先生

#### 記

日 時： 令和2年12月21日（月） 15:00～16:30

場 所： 長崎大学 文教キャンパス 文教スカイホール（グローバル教育・学生支援棟4F）

#### 講演概要

##### ■「自然知能」とは何か？

我々の社会には、最先端のコンピュータや人工知能だけでは解決出来ないことが沢山あります。本セミナーでは、人工知能とは異なる、上位の原理としての「自然知能」について、その新しいコンセプトを考えます。

##### ■「曖昧な科学」と「価値の選択」

現代社会は、高度な知的機能が問われ、人工知能の時代に急速に転換しています。一方、自然界に存在する生物や物質には、回路のような構造を持たなくても、適切な入力（知覚）と出力（造形）から、社会的に新しい価値をもたらす情報処理や機能変換などの、知的機能を発現する可能性があります。例えば、粘菌アメーバには、現在のコンピュータが苦手とする数学の問題を解く力があることが確認されています。その粘菌の生き延びようとする論理的には不可知な行動から、人間が自分の問題に置き換えて答を導く、即ち「価値の選択」が重要な鍵を握ります。

##### ■ポスト・ノーマルサイエンス：サイエンスとアートの融合

複雑な社会課題は、分断されたディシプリンと文化の中で閉じて議論していても解決出来ません。不確実性、曖昧さ、雑音などを受け入れて事態を見つめ直し、新たな問いを立てる方法論を模索しつつ、既存の学問分野の枠内や延長線上にはない、社会的価値を創出する21世紀の新しいサイエンスの形を考えます。

是非、多数の皆様のご参加をお待ちしております。なお、このセミナーは、工学研究科博士前期課程総合工学専攻化学・物質工学コースの化学・物質工学特別講義Bの授業を兼ねます。

本セミナーオーガナイザー

長崎大学工学研究科 物質科学部門 相樂 隆正（2676）

[動的分子化学研究室] E-mail [sagara@nagasaki-u.ac.jp](mailto:sagara@nagasaki-u.ac.jp)